

『地域で生きる』を支援する

～今こそ自己責任論に終止符を！～

「約束を破ったのだから、困って当然だ」そんな思いが、現場でふとよぎることはありませんか。

「精神疾患等にはよくあることなのだ」とあいまいに理由づけて、流していませんか。

時に“自己責任論”が支援を遠ざけ、関係性を断ち切ってしまうことになっていませんか。

今回の研修では、ルポライターの鈴木大介さんを講師にお迎えします。自身の脳梗塞による当事者経験を持ち、長年にわたり貧困・依存・虐待・医療などの取材を続けてきた鈴木さんは、「支援される側」と「支援する側」双方の視点から、リアルな声と現場の実態を伝え続けてきました。

改めて「自己責任論とは何か？」を問い直し、支援者としてのまなざしを深める時間を一緒にしませんか。

1 日時

令和 8 年 2 月 15 日(日)13:30～17:00(受付開始 13:00)

2 会場

千葉市役所本庁舎(高層棟) 1F 正庁(千葉市中央区千葉港 1 番 1 号)

3 内容

(1) 基調講演～不自由な脳を支援するとは～(13:30～15:00)

講師 鈴木大介(文筆業・ルポライター)

1973年千葉県生まれ。子供や女性、若者の貧困問題をテーマにした取材活動をし『最貧困女子』(幻冬舎)、『ギャングース(漫画原作・映画化)』(講談社)、『老人喰い』(ちくま新書・TBS系列にてドラマ化)などを代表作とするルポライターだったが、2015年に脳梗塞を発症して高次脳機能障害当事者に。その後は高次脳機能障害者としての自身取材した闘病記「脳が壊れた」「脳は回復する」(いずれも新潮社)や夫婦での障害受容を描いた「されど愛しきお妻様」(講談社)などを出版。2020年、援助職向けに書き下ろした『「脳コワ」さん支援ガイド』(医学書院・シリーズケアをひらく)にて日本医学ジャーナリスト協会賞大賞受賞。近刊に『ネット右翼になった父』(講談社現代新書・新書大賞 2024・5位)『貧困と脳 働かないのではなく働けない』(幻冬舎新書)など。



(2) 意見交換(15:00～16:30)

※終了後、千葉駅周辺で懇親会を企画しております(懇親会参加費は会場で精算)

4 参加費

500 円

5 申込(先着 100 名を超えた場合締め切ります)

2月12日(木)までに申込フォームへ入力 <https://forms.gle/kcE5AwCTewPhizT16>

6 共催

千葉市役所福祉会

7 問い合わせ

【参加申込フォーム】

千葉県社会福祉士会 事務局 電話 043-238-2866

当日のお問合せ 千葉県社会福祉士会 山口 電話 090-8464-4080

